（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4391000108		
法人名	医療法人　社団　孔子会		
事業所名	グループホーム　まゆの里　綾ユニット		
所在地	熊本県菊池市泗水町福本780番地		
自己評価作成日	令和5年　12月　15日	評価結果市町村報告日	令和6年　3月　7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年　1月　15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者一人ひとりの願いや希望を一つでも多く叶え、実現でき、まゆの里を我が家として感じる事で、自分らしくできる事やわかる事を活かし役割をもって生活していただけるように、職員も寄り添い、助け合いながら共に暮らす喜びの実現を目指しています。まゆの里職員が講師となり、勉強会を行っている。また学びを活かし質の高いケアに繋がるよう情報の共有にも力をいれています。日々のあたりまえの暮らしを大切に、尊重されていると実感していただけるようなケアを実現していきたいと考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

公民館の隣に位置する事業所は、従来より法人全体で地域との関わりも続いており、運営推進会議の意見交換の様子も確認できました。訪問時の入居者の様子は、居室で過ごす方、リビングでテレビを見る方、中には調理の手伝いや洗濯物干し、掃除を手伝う姿も見られ、日常の生活の様子が垣間見えるようです。入居者が「普通の生活」を送ることができるよう、職員は入居者の傍らで度々声を掛け、入居者の手伝いの後にはお礼を伝える等、集団生活でありながら職員と入居者が1対1である会話のやり取りを感じることができました。事業所として「できる限り歩ける方には歩いてもらう、できることは継続してもらう」の支援方法が浸透しています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に、名刺ケースに理念を見られるようにカードを携帯している。	理念は、年1回全職員を対象として法人研修を行っている。事業所ミーティングでは、年度初めにグループホーム及び利用者ケアについての意見交換や対応について議題を持ち、理念に基づいたケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流は、難しい状態。今年は、地区の清掃活動に参加できた。区長さん等に、出来ることの提案や情報の共有をお願いしている。まゆの里通信を2ヶ月に一回作成し、地域の回覧板に入れてもらっている。	数年のコロナ禍を経験し、徐々に地域との関わりの再開が見られている。地域公民館と隣接していることから地域に親しまれた事業所であり、地域清掃には法人・事業所職員の参加が続いている。今年度は町の文化祭に出向く入居者もいた。	従来から地域との情報交換も行われており、地域との関わりも年間事業計画に掲げてありました。入居者の身体状況にもよりますが、入居者と地域との関わりを感じることのできる支援の継続に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染予防の為月1回行っていた、認知症カフェは今年度は開催出来なった。認知症キャラバンメイトに登録を行っている職員がいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は、オンライン等で行っていたが、今年度は対面式で行えた。利用状況や、ホームでの様子を報告。ヒヤリハットや事故についても報告し意見を頂いている。まゆ里通信を作成して説明も行っている。	今年度から対面での会議を再開している。会議では、事業所でのイベントでの様子、外出の様子、調理等の日常生活の写真を使い報告している。今年度から医師にも参加してもらい、参加者による意見交換等行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者に出席頂き意見を頂いている。高齢者地域見守りネットワークへの協力等、日頃から行政との協力している。	日常的に報告・連絡・相談等を行っており、運営推進会議にて日頃の入居者の様子等も伝えている。市の取組みである高齢者地域見守りネットワークにも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の勉強会やミーテングにて、身体拘束について勉強会を毎年行っている。身体拘束は行っていない。法人の身体拘束適正化検討員会を3ヶ月1回開催、参加している。	3ケ月に1回の法人で開催される身体拘束適正化検討委員会にはホーム長が参加している。事業所内でも年間計画により身体拘束・不適切ケアに関する研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会ミーテイングにて、高齢者虐待防止について学んでいる。日頃のケアに統一に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会ミーテイングにて、権利擁護について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明を行っている。 介護報酬改定等で、利用料金が変化する場合はその都度説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前に、契約書や重要事項説明書の内容について説明し、不明点がないか確認を行っている。	入居前には本人と家族等とも面談し、意見や希望を確認している。事業所では従来より家族の面会もよく見られ、面会の際には職員からも声を掛け意見を得る機会としている。コロナ禍によりパーテーションで声が聞きづらいこともあり、家族の意見で卓上マイクを取入れ喜ばれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーテイングや面談時などに、職員の意見を聞き反映している。	職員は管理者へ随時意見を表すことができ、管理者からも職員へ声掛けを行っている。毎月の職員会議でも意見を表すことができる。管理者による個人面談もあり、必要により随時管理者より法人への報告も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、評価を行っており、個別的に面談を行い、助言を行いやる気に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン及び、集合研修にも参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン及び、集合研修時意見交換などで交流を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書を読んだうえで、ご本人の行動、訴えを聞き対応している。安心して生活が出来るような関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、ご家族との面談を行い、困っている事や不安な事、これまでの経緯や思いをしっかりと聞き、今後の信頼関係が築けるようにしている。また、いつでも気軽に相談してもらえるような、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思い、要望を聞き、現状が当ホームの利用に適切であるのかを考え対応している。必要に応じて、居宅のケアマネージャ・病院等と連携し、他のサービスが適切な場合はサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念でもある、「共に生き、共に暮らしをつむいでいきます」が実現できるように、暮らしの中で入居者、職員が共に助け合い、できる事は自然に出来る様にし、料理や掃除など職員も教わりながら日々の暮らしを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策を行い、出来限り面会を行ってきた。又、オンライン面会や窓越し面会を実施した。家族来所時は情報交換・コミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出話や、過去の話は傾聴するようにしています。感染予防を行った上で、面会の場を設けたりしている。	この数年はコロナ禍で支援が難しい状況であったが、出来る限りの面会受入れ等を継続していた。今年度は家族との墓参り外出もみられ、地域との交流や馴染みのあるイベント外出も事業計画に載せ実現に向け取組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状態を考慮し、家事やレクレーションを一緒に行い助け合う様子が見られる。リビングの席やテーブルのセッティングは、入居者の関係性に注意しながら検討している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、状況を尋ねたり、相談にのったり状況に応じて必要なサービスを紹介したりしている。ホームでの様子を職員に伝え、今までの暮らしが継続できるようにしている。必要時、入居時の写真の提供を行っている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当がご本人意向を聞きとり、できる限り希望に添うようにしている又、ケアプラン作成にも反映している。	日常的に職員から入居者への声掛けをよく行っている。乳酸飲料や誕生会の飲み物等、入居者の好みにより準備している。面会や担当者会議を利用し家族の思いや意向も把握し、必要に応じて介護計画へも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報の聞き取りから生活歴や今まで暮らしを確認し、本人や家族からも話しを聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を行うと共に、できる事やわかる事に着目し、どのような支援を行えば出来るか、話し合い検討を行っている。又、毎日の申し送りで、一人一人情報伝達を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録に残し、チームで情報交換共有を出来るようにしている。必要な課題がある場合は、ミーティングで話しあうようにしている。	日々の記録は入居者の様子や言葉も記録しており、誰が見ても分かるよう、また医師に状況を伝えられるように行っている。計画作成者と担当職員にて毎月行うモニタリングでは特に排泄状態・口腔ケアについても確認している。担当者会議は毎回家族にも参加頂き、家族の意向も確認する場としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間を通して、SOAPで記録を行っている。毎日の様子や入居者の言葉、職員の対応など細やかに記録している。特に全職員で共有すべき出来事は、申し送り記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の観察を行うと共に、できる事やわかる事に着目し、どのような支援を行えば出来るか、話し合い検討を行っている。又、毎日の申し送りで、一人一人情報伝達を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出が現在難しいが、廃品回等地域子供会が来ている。地域の民生委員へ、事業所説明を行っている。地域で、支援が必要な方との架け橋を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を確認し、以前のかかりつけ医を希望される場合は継続している。感染予防の為に、病院側と受診時間を調整したり、往診をしてもらうなどの協力依頼を行い実施している。	入居時に意向を確認し、入居者希望のかかりつけ医による受診を支援している。専門医等通院が必要な場合には職員にて介助を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった時だけでなく、普段からホーム内の看護職と連携し相談、対応ができるようにしている。異常あれば家族に連絡、相談しかかりつけ医や必要な病院への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの様子を情報提供している。入院中は、家族や病院の看護師や相談員と連絡をとり、情報交換や今後について相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「利用者の重度化及び看とり介護に関する指針」を説明している。今後、重度化や終末期になった場合は本人、家族と話し合い連携しながら、支援していきたい。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の指針と対応について説明している。実際にその時期を迎える際には入居者・家族の他医師等関係機関と話合いを重ね、意向を確認しながら支援する体制であるが、現状は医療が必要となる際には入院となる例が殆どである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法とAEDについて学んでいる。急変時はマニュアルに添って、対応している。事業所内に、AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の事業所と連携し、消防署立会いのもと昼・夜間想定の避難訓練を実施している。法人内の備蓄他、ホーム内にも備蓄している。今後地域との連携も図りながら取り組んでいきたい。	昼夜想定で避難訓練を行っている。訓練時は消防署からの講評を受け、訓練後には職員間で反省・気付きを残し、次回に繋げている。事業所横には川が流れており、近年は整備改善されたものの、自然災害に向け水害時の避難場所について検討しているところである。	近年の自然災害は予想を上回る被害が見られることもあります。火災だけでなく、様々な避難場面を想定し入居者参加においての訓練実施も期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーが保てるように、居室は入居者がカギをかけられるようになっている。人生の先輩として尊重し、丁寧な言葉かけや対応をするようにしている。	職員から入居者の声掛け時には敬語を基本とし、丁寧な対応を行っている。居室はそれぞれプライバシー配慮の面から鍵を掛けることができ、安心した時間を過ごすことができる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、飲み物の選択や入浴時間など利用者が自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握しその人らしく穏やかに生活できるのか、また入居者に聞きながら、できるだけ叶えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、自分が着たいものを選んでもらってる。女性は、自分の化粧品でお化粧している又、外出や行事がある時は、おしゃれ着を着てもらい、スカーフやアクセサリー、帽子などを身につけて出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備、盛りつけ、配膳や下膳などできる事をしてもらっている。誕生日には、食べたい料理を聞き提供している。	職員手作りの食事を提供している。職員の気付きには、ひと月おきに指導管理栄養士からの指導があり、職員の負担軽減や新メニュー展開のためのサイクルメニューの提案、手作りおやつの検討等が見られる。食事提供の際には一人ひとり一皿ずつ料理名を伝え、入居者の「いただきます」の言葉で食事が始まる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は、個別の必要水分量を出して毎日把握してる。本人の希望や、状態に応じて食形を変更したり、好みの飲み物に変更したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。口腔ケア後は口腔内の観察を行い、夜間は義歯を預かっている。治療が必要な方や、定期的なメンテナンスをされている方もいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の、排泄パターンをアセスメントしその人にあった、パットを検討している。可能限り、トイレで排泄出来るようにしている。	日中はできるだけトイレでの排泄に向け支援している。夜間はトイレでの排泄、オムツ等利用等、入居者それぞれの状況に合わせている。入居者の「トイレに行きたい」気持ちを叶える支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	さつま芋などの食物繊維を味噌汁に入れたり、牛乳やヨーグルトを勧めたりして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は温泉を使用し、入りたい時に入れるように、無理強いはしない希望にそって入浴ができるようにしている。また、一人一人のADLに合わせ、リフト浴や檜浴を使い分けるようにしている。	週3回を基本としている。機械浴の設置もあり、できるだけ浴槽に入りゆっくりとした時間を過ごして頂くよう支援している。シャンプー類はそれぞれ好みの物を使用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファ、畳の間など、思い思いの好きな場所で休んだり、昼寝をしたりゆっくりと、すごしてもらっている。夜間は衣類、寝具の調整、室温湿度の調整を行い、気持ちよく眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット毎に、ファイリングを行い職員が見られるようにしている。排便の状態が申し送りされ、状態に合わせて調整がされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台拭き、調理の手伝い、洗濯干し、たたみ、できることを無理なく行っていただいている。花も水やりが日課の方がおり、進んで行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の為、外出は中々できなかったが近隣を散歩したりして、地域の方とすれ違い様に挨拶を行ったりできている。	この数年はコロナ禍で計画による外出や家族との外出も難しかった。今年度は日常的な散歩の他、地域マラソン大会の応援等にも出向いた。地域行事も交え、年間を通して外出行事を計画しているところである。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいはホームで預かり、買い物時自由に使えるようにしている。金銭を手元に持っていたほうが、落ち着かれる方には、家族理解のもと、少額を本人が持たれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が、あれば電話を取り次いで話していただいたり、手紙を郵送したりしている。携帯電話を所有している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地中熱システムを導入し、快適な室温・湿度が保てるようにしている。季節の花を飾ったり、壁紙に季節の飾りを、入居者と作り飾ったり、季節を感じられる環境作りを行っている。テレビはみたい方がいる時は、つけているが、誰も見ていない時は消し、不快な刺激とならないようにしている。	明るく温かな事業所内では、テレビを見たり、部屋で休んだりと入居者は自由に過ごすことができる。職員声掛けにより食事の支度や洗濯物干し等手伝う姿もあり、日常の生活を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集うダイニングテーブルの他に、窓際のスペース、ソファ、畳などがあり、好きな場所で、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、タンスやソファーなどを持って来られたり、家族の写真や自宅で育てた花を飾ったり、一人ひとりが落ち着いて、過ごせるようにしている。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼している。窓際にソファや椅子等があり、外の様子を見る入居者もおられる。花や写真、額に入れた手ぬぐいを飾ったりと入居者の好みも生かされ、家族を感じることもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで生活動線には、手すりを設置している。整理整頓をして安全に生活で出来るように配慮している。畳で洗濯物をたたんだり、椅子に座って調理の手伝いができるように低めの配膳台を備え付けている。		

（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4391000108		
法人名	医療法人　社団　孔子会		
事業所名	グループホーム　まゆの里　絹ユニット		
所在地	熊本県菊池市泗水町福本780番地		
自己評価作成日	令和5年　12月　15日	評価結果市町村報告日	令和5年　　月　　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年　1月　15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に、名刺ケースに理念を見られるようにカードを携帯している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流は、難しい状態。今年は、地区の清掃活動に参加できた。区長さん等に、出来ることの提案や情報の共有をお願いしている。まゆの里通信を2ヶ月に一回作成し、地域の回覧板に入れてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染予防の為月1回行っていた、認知症カフェは今年度は開催出来なった。認知症キャラバンメイトに登録を行っている職員がいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は、オンライン等で行っていたが、今年度は対面式で行えた。利用状況や、ホームでの様子を報告。ヒヤリハットや事故についても報告し意見を頂いている。まゆ里通信を作成して説明も行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者に出席頂き意見を頂いている。高齢者地域見守りネットワークへの協力等、日頃から行政との協力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の勉強会やミーテングにて、身体拘束について勉強会を毎年行っている。身体拘束は行っていない。法人の身体拘束適正化検討員会を3ヶ月1回開催、参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会ミーテイングにて、高齢者虐待防止について学んでいる。日頃のケアに統一に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会ミーテイングにて、権利擁護について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明を行っている。 介護報酬改定等で、利用料金が変化する場合はその都度説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前に、契約書や重要事項説明書の内容について説明し、不明点がないか確認を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーテイングや面談時などに、職員の意見を聞き反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、評価を行っており、個別的に面談を行い、助言を行いやる気に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン及び、集合研修にも参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン及び、集合研修時意見交換などで交流を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書を読んだうえで、ご本人の行動、訴えを聞き対応している。安心して生活が出来るような関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、ご家族との面談を行い、困っている事や不安な事、これまでの経緯や思いをしっかりと聞き、今後の信頼関係が築けるようにしている。また、いつでも気軽に相談してもらえるような、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思い、要望を聞き、現状が当ホームの利用に適切であるのかを考え対応している。必要に応じて、居宅のケアマネージャ・病院等と連携し、他のサービスが適切な場合はサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念でもある、「共に生き、共に暮らしをつむいでいきます」が実現できるように、暮らしの中で入居者、職員が共に助け合い、できる事は自然に出来る様にし、料理や掃除など職員も教わりながら日々の暮らしを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策を行い、出来限り面会を行ってきた。又、オンライン面会や窓越し面会を実施した。家族来所時は情報交換・コミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出話や、過去の話は傾聴するようにしています。感染予防を行った上で、面会の場を設けたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状態を考慮し、家事やレクレーションを一緒に行い助け合う様子が見られる。リビングの席やテーブルのセッティングは、入居者の関係性に注意しながら検討している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、状況を尋ねたり、相談にのったり状況に応じて必要なサービスを紹介したりしている。ホームでの様子を職員に伝え、今までの暮らしが継続できるようにしている。必要時、入居時の写真の提供を行っている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当がご本人意向を聞きとり、できる限り希望に添うようにしている又、ケアプラン作成にも反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報の聞き取りから生活歴や今まで暮らしを確認し、本人や家族からも話しを聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を行うと共に、できる事やわかる事に着目し、どのような支援を行えば出来るか、話し合い検討を行っている。又、毎日の申し送りで、一人一人情報伝達を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録に残し、チームで情報交換共有を出来るようにしている。必要な課題がある場合は、ミーティングで話しあうようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間を通して、SOAPで記録を行っている。毎日の様子や入居者の言葉、職員の対応など細やかに記録している。特に全職員で共有すべき出来事は、申し送り記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の観察を行うと共に、できる事やわかる事に着目し、どのような支援を行えば出来るか、話し合い検討を行っている。又、毎日の申し送りで、一人一人情報伝達を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出が現在難しいが、廃品回等地域子供会が来ている。地域の民生委員へ、事業所説明を行っている。地域で、支援が必要な方との架け橋を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を確認し、以前のかかりつけ医を希望される場合は継続している。感染予防の為に、病院側と受診時間を調整したり、往診をしてもらうなどの協力依頼を行い実施している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった時だけでなく、普段からホーム内の看護職と連携し相談、対応ができるようにしている。異常あれば家族に連絡、相談しかかりつけ医や必要な病院への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの様子を情報提供している。入院中は、家族や病院の看護師や相談員と連絡をとり、情報交換や今後について相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「利用者の重度化及び看とり介護に関する指針」を説明している。今後、重度化や終末期になった場合は本人、家族と話し合い連携しながら、支援していきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法とAEDについて学んでいる。急変時はマニュアルに添って、対応している。事業所内に、AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の事業所と連携し、消防署立会いのもと昼・夜間想定の避難訓練を実施している。法人内の備蓄他、ホーム内にも備蓄している。今後地域との連携も図りながら取り組んでいきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーが保てるように、居室は入居者がカギをかけられるようになっている。人生の先輩として尊重し、丁寧な言葉かけや対応をするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、飲み物の選択や入浴時間など利用者が自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握しその人らしく穏やかに生活できるのか、また入居者に聞きながら、できるだけ叶えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、自分が着たいものを選んでもらってる。女性は、自分の化粧品でお化粧している又、外出や行事がある時は、おしゃれ着を着てもらい、スカーフやアクセサリー、帽子などを身につけて出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備、盛りつけ、配膳や下膳などできる事をしてもらっている。誕生日には、食べたい料理を聞き提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は、個別の必要水分量を出して毎日把握してる。本人の希望や、状態に応じて食形を変更したり、好みの飲み物に変更したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。口腔ケア後は口腔内の観察を行い、夜間は義歯を預かっている。治療が必要な方や、定期的なメンテナンスをされている方もいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の、排泄パターンをアセスメントしその人にあった、パットを検討している。可能限り、トイレで排泄出来るようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	さつま芋などの食物繊維を味噌汁に入れたり、牛乳やヨーグルトを勧めたりして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は温泉を使用し、入りたい時に入れるように、無理強いはしない希望にそって入浴ができるようにしている。また、一人一人のADLに合わせ、リフト浴や檜浴を使い分けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファ、畳の間など、思い思いの好きな場所で休んだり、昼寝をしたりゆっくりと、すごしてもらっている。夜間は衣類、寝具の調整、室温湿度の調整を行い、気持ちよく眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット毎に、ファイリングを行い職員が見られるようにしている。排便の状態が申し送りされ、状態に合わせて調整がされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台拭き、調理の手伝い、洗濯干し、たたみ、できることを無理なく行っていただいている。花も水やりが日課の方がおり、進んで行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の為、外出は中々できなかったが近隣を散歩したりして、地域の方とすれ違い様に挨拶を行ったりできている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいはホームで預かり、買い物時自由に使えるようにしている。金銭を手元に持っていたほうが、落ち着かれる方には、家族理解のもと、少額を本人が持たれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が、あれば電話を取り次いで話していただいたり、手紙を郵送したりしている。携帯電話を所有している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地中熱システムを導入し、快適な室温・湿度が保てるようにしている。季節の花を飾ったり、壁紙に季節の飾りを、入居者と作り飾ったり、季節を感じられる環境作りを行っている。テレビはみたい方がいる時は、つけているが、誰も見ていない時は消し、不快な刺激とならないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集うダイニングテーブルの他に、窓際のスペース、ソファ、畳などがあり、好きな場所で、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、タンスやソファーなどを持って来られたり、家族の写真や自宅で育てた花を飾ったり、一人ひとりが落ち着いて、過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで生活動線には、手すりを設置している。整理整頓をして安全に生活で出来るように配慮している。畳で洗濯物をたたんだり、椅子に座って調理の手伝いができるように低めの配膳台を備え付けている。		

2　目 標 達 成 計 画

事業所名　グループホームまゆの里

作成日　令和　6年　2月　6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	感染予防により地域との関りが十分出来ていなかった。	感染対策を行いながら、地域と関わる機会を増やしていく。	清掃活動に参加したり、出来ることから行って行く。	１年
2	35	避難訓練を行っているが、火災による訓練しか出来ていない。	地域により起こりうる災害に違いがある為、訓練を検討する。	火災訓練以外の訓練を検討を行う。	1年
3	49	感染予防の為、以前に比べ外出が出来ていない。	外出の機会を増やす。	事業所や家族との短時間での外出を検討する。	6ヶ月
4					
5					

注１）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は、行を追加すること。